

私は、ネパールのパルバット出身です。ネパールは豊かな文化を持ち、アドベンチャー満載の観光で有名です。私の故郷は、世界第2位の高所からのバンジージャンプが有名で、地元の人のみならず国民の自慢となっています。

ネパールで有名な観光地は、ポカラ、ブッダの生誕地であるルンビニ、首都のカトマンズです。代表的な料理は、ネパールのそばがき『デイド』ですが、餃子に似た『モモ』が最も有名です。全国的なお祭りは『ダサイン』『テイハール』『チャット』です。

私は1年以上前に日本の会社でデザインエンジニア



国籍 ネパール

名前 ネウバネ・プルカス  
年齢 25歳  
好きな言葉 本気、規律  
趣味 サイクリング、音楽  
特技 デザイン

として働くために来ました。しかし、それだけではなく、日本の人たちや日本の文化も大好きです。

鳥栖の好きなのところは、人々を温かく迎え入れてくれる点と、困っている外国人を手助けしてくれる親切な点です。

ここで働きながら、この周辺のいろいろな場所を訪れてみたいです。東京もいくつか訪れてみたいです。今ここでいろいろなことを学びながら、人生の中のさまざまな局面で出会うチャンスをしつかりと自分のものにしていきたいと思っています。



デイド

■やさしい日本語クイズ答え(14ページ) ①入る②近く③決まっていること④困ったこと

## とす新風土記「鳥栖市誌」を読む 第118回

### 「勝尾城を知る」第14話

#### 鏡城の戦いと村田八幡

永禄2年(1559年)9月、鏡城(牛原町)で戦闘がおきます。

この一連の戦いのことを、筑紫家から大友家の家臣である田尻親種(柳川市鷹尾城主)宛てに「真清と戦闘になったが、筑紫家の内紛であって、大友家への敵意は無い」と述べる書状が複数残っています。主導権を握った長門入道らはその後、待島合戦で戦った大友家との関係を修復するために奔走していたことがうかがえます。

しかし、筑紫長門入道らに攻められ宮浦城は落城、仁九市の身柄は長門入道によって保護されました。真清は、再起をかけて勝尾城の目と鼻の先にある鏡城に入ります。長門入道はすぐさま鏡城を包囲します。後世の記録によると、この時「田代・宿貝方(河内町)の三方向から攻め込んで落城させた」と記

そして永禄3年2月、大友義鎮(宗麟)は、筑紫長門入道に対して「真清との戦闘について不問」とする旨の書状を発行しました。これにより大友家は長門入道らを仁九市の後見人と認められたのです。真清は名実ともに敗北しました。

真清は養子先である草野

へ逃れたと伝わりますが、詳しいことは分かっていません。

ところが、平成3年(1991年)、村田八幡神社の補修工事の際に、御神像の底面に『永禄3年願主筑紫真清』の墨書銘が確認されました。鏡城の戦いの後も、真清の影響力が鳥栖市域に残っていたことが分かります。

(鳥栖市誌第3巻第3章第3節より)



▲村田八幡神社

### 「鳥栖市誌」発売中

「鳥栖市誌」は、市教育委員会生涯学習課、油屋本店、古賀書店などで取り扱っています。詳しくは、同課(☎0942-85-3695)へ。



「記事ID」をご利用ください

市ホームページの記事ID検索窓に、市報に掲載しているIDを入力することで情報を確認できます。